慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ブリュノ・ラトゥールの科学技術論
Sub Title	Bruno Latour's philosophy of science and technology
Author	荒金, 直人(Arakane, Naoto)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は, フランスの哲学者ブリュノ・ラトゥール(Bruno Latour)の思想を手掛かりに, 現代の科学技術を哲学的に捉え直すための新たな視点を探るものであり, 平成27年度からの三年計画で進められた。初年度の平成27年度は, ラトゥールの思想についての理解を深めることを第一目標としつつ, 同時に, ラトゥールの科学論と何らかの接点のある様々な思想の理解に努めた。この過程で, 特に金森修に注目した。二年目である平成28年度は, 初年度の研究を更に推し進め, ラトゥール自身の哲学のより包括的な理解に努めるとともに, 広く科学史, 科学哲学, 科学社会学についての理解を深め, 科学を巡るより広い思想的文脈の中にラトゥールを位置づけて, 彼の思想を相対化しつつ, その独自性をより良く理解できるように努めた。この過程で特に, 一方で科学技術を支える価値観の歴史的変化に注目し, 他方でそれと連動する形で, 科学についての諸思想の変遷に注目した。また, ラトゥールの思想の哲学的な一貫性と射程の広さについても確信を深めた。三年目である平成29年度は, ラトゥール哲学の内在的理解と科学技術論の文脈的理解の両方をより精緻なものにすることに努めると同時に, 前年度に多くの時間を割いたラトゥールの著作一点の翻訳を完成させて出版した。この著作では, 科学人類学と呼ばれるラトゥールの初期の思想が, 物神崇拝や聖像破壊というより文化人類学的な主題を通じて展開されており, 翻訳の作業の中で, いかにして彼の科学論が宗教, 芸術, 政治についての思想へと射程を広げるのかを研究した。それと並行して, 平成29年度は, ラトゥールの初期の主著であるパストゥール論についての研究と翻訳作業を開始した。この著作では, ラトゥールの哲学的な立場が比較的直接的に表現され, その哲学を踏まえた方法論に基づいてパストゥールの微生物学が分析されている。科学社会学の古典でもあるこの著作の翻訳作業を通じて, ラトゥールの科学技術論の理解を更に深める作業が継続された。 This year, I finished my translation of Bruno Latour's book : Sur le culte moderne des dieux faitiches, suivi de Iconoclash (On the Modern Cult of the Factish Gods, followed by Iconoclash), in which Latour's thought called anthropology of sciences is expressed in relation to themes closer to the anthropology in the traditional sense as fetishism or iconoclasm. Through this translation I have shown how his philosophy of science broadens its scope to become a philosophy of religion, art and politics.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年 3 月 23 日

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	理工学部	職名	准教授	補助額	200 （B）千円
	氏名	荒金 直人	氏名（英語）	Naoto Arakane		

研究課題（日本語）

ブリュノ・ラトゥールの科学技術論

研究課題（英訳）

Bruno Latour's philosophy of science and technology

１．研究成果実績の概要

本研究は、フランスの哲学者ブリュノ・ラトゥール（Bruno Latour）の思想を手掛かりに、現代の科学技術を哲学的に捉え直すための新たな視点を探るものであり、平成 27 年度からの三年計画で進められた。初年度の平成 27 年度は、ラトゥールの思想についての理解を深めることを第一目標としつつ、同時に、ラトゥールの科学論と何らかの接点のある様々な思想の理解に努めた。この過程で、特に金森修に注目した。二年目である平成 28 年度は、初年度の研究を更に推し進め、ラトゥール自身の哲学のより包括的な理解に努めるとともに、広く科学史、科学哲学、科学社会学についての理解を深め、科学を巡るより広い思想的文脈の中にラトゥールを位置づけて、彼の思想を相対化しつつ、その独自性をより良く理解できるように努めた。この過程で特に、一方で科学技術を支える価値観の歴史的変化に注目し、他方でそれと連動する形で、科学についての諸思想の変遷に注目した。また、ラトゥールの思想の哲学的な一貫性と射程の広さについても確信を深めた。三年目である平成 29 年度は、ラトゥール哲学の内在的理解と科学技術論の文脈的理解の両方をより精緻なものにすることに努めると同時に、前年度に多くの時間を割いたラトゥールの著作一点の翻訳を完成させて出版した。この著作では、科学人類学と呼ばれるラトゥールの初期の思想が、物神崇拝や聖像破壊というより文化人類学的な主題を通じて展開されており、翻訳の作業の中で、いかにして彼の科学論が宗教、芸術、政治についての思想へと射程を広げるのかを研究した。それと並行して、平成 29 年度は、ラトゥールの初期の主著であるパストゥール論についての研究と翻訳作業を開始した。この著作では、ラトゥールの哲学的な立場が比較的直接的に表現され、その哲学を踏まえた方法論に基づいてパストゥールの微生物学が分析されている。科学社会学の古典でもあるこの著作の翻訳作業を通じて、ラトゥールの科学技術論の理解を更に深める作業が継続された。

２．研究成果実績の概要（英訳）

This year, I finished my translation of Bruno Latour's book: Sur le culte moderne des dieux faitiches, suivi de Iconoclash (On the Modern Cult of the Factish Gods, followed by Iconoclash), in which Latour's thought called anthropology of sciences is expressed in relation to themes closer to the anthropology in the traditional sense as fetishism or iconoclasm. Through this translation I have shown how his philosophy of science broadens its scope to become a philosophy of religion, art and politics.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
荒金直人	ブリュノ・ラトゥール著『近代の〈物神事実〉崇拝について――ならびに「聖像衝突」』（翻訳と解題）	以文社	2017 年 9 月